

2020年度は、コロナ禍により各OB会の活動も現役と同様に種々の面で制限されてきました。従って、その活動状況(総会・役員会等の開催、OB会費集金状況、新入部員入部状況等)についてアンケート調査を行う。

1. アンケート回答状況について(体育会OB会40団体へアンケートを配信)

回答有無	団体数	回答率
有り	34	85%
無し	6	15%

【コメント:無回答の団体が6団体であったが、例年と同様の回答率の結果である。無回答の団体はOB会の活動が低迷している団体が多い。】

2. OBOG会内の会議の開催状況について

①総会の開催

開催状況	団体数
中止	22
書面開催	4
Zoom	3
メール	3
開催無し	2
合計	34

②役員会(理事会、幹事会等)の開催

開催状況	団体数
中止	16
書面開催	2
メール・WEB・LINE等	11
集合(対面)形式	3
開催無し	2
合計	34

【コメント:コロナ禍により、会議を中止とした団体が総会22団体、役員会16団体と多く全体として活動が不十分であったことが伺われる。又、Zoom等オンライン会議を活用している団体も予想外に少なく、各団体のシステムの導入と整備が望まれる。】

3. OB会費の集金状況について

①OB会費の集金額(34団体の合計集金額)

年 度	万円
2018年度調査結果	2,580
2020年度調査結果	2,617

②現役への支援額(34団体の合計支援額)

年 度	万円
2018年度調査結果	2,100
2020年度調査結果	1,640

【コメント:2018年の調査数字と比べると集金合計額は同程度の額を集金しており、OB会の集金活動の努力が伺われる。しかし、現役への支援額は約20%減額している。これは、コロナ禍により、現役の活動が制限(部活動停止、遠征・合宿禁止、大会縮小・中止等)され、支出額が減少した結果と思われる。】

4. 2020年度の公式大会の開催状況について

現役出場の公式大会が中止になった団体	団体数
アーチェリー・剣道・硬式庭球・バドミントン 陸上競技・ボクシング・バスケットボール	7

【コメント:学生にとって大会出場は部活動の最大の目的でありトレーニングの成果を発揮する場である。大会中止は残念な結果である。】

5. 2020年度の新入部員の入部状況について(2021年3月時点)

新入部員	入部員数	合計(人)
男性	173	236
女性	63	

新入部員の入部が0人の団体	団体数
自動車・スキー・ボクシング・ライフセービング 理工サッカー・理工バスケット・空手道	7

【コメント:大学の生徒数は7,442人、内1年生は1,876人であり、体育会への入部率は236人/1876人=12.6%である、例年の入部率15%以上からすると減少しており、又、新入部員0人の団体も7団体あり、今後の体育会の不活性化が心配される。この新入部員の課題については、学生部でも十分に認識されており、2021年度は特別に新人勧誘会二日間開催して頂いた。今後も学生部と現役も含めて検討を続けていく必要がある。】

6. コロナ禍の影響で困ったことは?

①現役の活動において

- ・諸活動停止によるモチベーションの低下
- ・部内の対面活動の減少→部員のまとまり欠如
- ・新入部員の減少→将来の不活性化、存続危機
- ・公式大会の開催中止→意気消沈
- ・OBOGとの交流制限→「オール成蹊!」意識の欠如

②OBOG会の活動において

- ・対面形式会議の中止→OB会機能の低下
- ・現役との交流機会の減少→支援、指導力の低下
- ・学園立入禁止、施設利用の停止→OB会活動の低下
- ・イベントや収益事業の中止→OB会活動と支援金の低下
- ・周年事業の中止、延期→モチベーションの低下

7. コロナ禍におけるOBOG会の特別な活動は?

- ・コロナ支援金、寄付金の募金活動
- ・SNS, Zoom, オンラインによる情報交流システムの整備
- ・OB会報や交流情報の受発信強化
- ・若手OB役員によるコロナ禍における新しい対応策の検討

8. 大学やOB会長会への要望について

- ・大学のコロナ対策などの情報発信
- ・各OBOG会の種々の対応策の情報発信と共有化
- ・新人獲得のための勧誘会の開催
- ・学園施設等の利用許可(困難は理解しているが?)

【コメント:上記の「6項コロナ禍で困ったこと」の内容が現在の活動の実態であり、今後の体育会の活動は停滞が予想され、新入部員の減少に伴って存続が危ぶまれる団体も出てくると思われる。今後もコロナ禍の活動環境は続くと思われ、現役学生を中心に学生部(学生支援事務局)とOBOG会三者間の情報の交流と共有化を更に活性化させる必要がある。】

以上